

令和6年度 岡山県立真庭高等学校専攻科 学校評価書

自己点検

大学編入に係る事項

(学校教育法第58条の2 学校教育法施行規則第100条の2 関連)

評価項目	基準の概要	本校の状況	学校関係者評価	
			点検方法	可否
修業年限	2年以上	2年	教育課程表	可
単位認定方法	適切な方法で評価認定されているか	適切	ヒアリング	可
1単位授業科目構成	1単位45時間を標準 講義15～30時間 実習30～45時間	適切	教育課程表 時程表	可
科目構成	大学編入に必要な科目が履修できているか (専門科目 一般科目)	充足	教育課程表	可
修了要件	62単位以上	76単位	単位認定資料 ヒアリング	可
専攻科教員数	3名以上	教諭 3 講師 2 実習教員兼講師 1	学校要覧他	可
専攻科教員資格	告示第63号第11条を満たしているか	全員有資格者	教員免許 (写)	可
専攻科専用教室面積	380㎡以上(確認が必要)	専攻科専用教室423㎡ 看護科実習室740㎡	学校要覧 校内査察	可

令和6年度 岡山県立真庭高等学校専攻科 学校評価書

自己評価

専攻科の目標	1 国際化、少子高齢化などの社会の変化に適切に対応でき、かつ、感性豊かな時期に「看護のこころ」を養い、実践できる看護のスペシャリストを育てる。 2 看護の役割を認識し、より高度な専門的知識、技術、態度を習得させるとともに課題 解決能力と人間性に根ざした倫理的判断力を養う。 3 地域医療に貢献できる人材を育成する。
重点目標	1 看護の基本的概念を理解し、看護技術に必要な根拠ある知識と倫理的態度を身につけさせる。 2 基礎・基本的な知識や技術を統合し、健康の諸段階にある対象者の個性性に合わせた看護実践力を養う。

教育活動に係る事項 達成状況 ○:十分満足できる状態である ×:改善が必要である(中間期の空欄は今後実施予定)
(28文科初第35号通知 第1の3関連) 達成度 A:十分満足できる B:おおむね満足できる C:不十分である

評価項目	取組内容	評価指標	中間期		年度末		次年度への改善点	学校関係者評価	
			達成状況	達成度	達成状況	達成度		評価方法	評価
人間性の育成	・看護職に求められる素養の理解 ・地域医療に対する使命感の育成 ・医療に携わる者としての倫理観の育成 ・自主的な活動を通して協働観を育成	・看護職への理解を深めるような機会がある	○	A	○	A	・地元医師会、看護協会と連携し、最新の医療技術の習得や看護の倫理観を醸成するための特別講義及び研修会を定期的に実施している。次年度も講義内容を精選し継続していく。 ・生徒が自主的に運営、企画を行う様々な自治的活動を実践している。次年度も生徒の主体的活動を重視した指導を行いたい。	学校要覧 行事予定 学校自己評価	A
		・地域医療の現状を知る機会がある	○		○				
		・倫理観を育成するための機会がある	○		○				
		・自治会組織があり定期的な活動が行われている	○		○				
授業実施状況	・規律ある授業の実施 ・知識・技能の定着 ・思考力・判断力・表現力の育成	・規律ある授業が行われている	○	A	○	A	・教科担当と連携し、領域を横断した授業を行うことで基礎分野と専門分野の内容を関連づける授業展開を実施した。そのことにより、理解が深まったという意見が聞かれた。次年度向けて様々な領域でも1つの科目を分担し、教授していくことで理解が深まる学習方法を検討していく。 ・ICTを積極的に活用することで学生同士や教員とのコミュニケーションが容易となりディスカッションの活性化やいつでも学習することができるため、学習の柔軟性を図ることができた。次年度もICT活用し学習効果を高め、実践的なスキルが身につくよう指導を行いたい。	教育課程 シラバス 授業観察	A
		・各科目シラバスに基づいた授業が行われている	○		○				
		・知識・技能の定着を図るための工夫がある	○		○				
		・発問等に思考力・判断力・表現力等を育成するための工夫がある	○		○				
臨地実習の状況	・「臨地実習要項」に基づいた計画的な実習の実施	・実習施設が十分確保されている	○	A	○	B	・臨地実習評価にルーブリックを活用することで生徒が自らの課題を明確にし、自己認知することにより課題克服のための手立てを共有している。また、個別指導を通じて、生徒が自信を持って次年度の実習に臨めるよう支援を継続していく。 ・実習施設との更なる連携を図り、メンタルヘルスに課題を抱える生徒への支援や引率教員の配置を再検討し、臨地実習で適切な指導が実践できるよう改善していく。	臨地実習の手引き ヒアリング 関係資料	B
		・実習期間が適切に配置されている	○		○				
		・実習施設と綿密な打合せが行われている	○		○				
		・指導体制が適切である(課題・記録の提出 カンファレンスの実施 等)	○		×				
		・補充実習が適切に行われている	○		○				
		・危機(院内感染対策 実習中の事故等)に対応した管理体制(予防接種・緊急連絡方法等)が整っている	○		○				
進路状況	・地域医療に貢献できる看護師の育成 ・個の能力に応じた進学指導の実施	・地元医療施設の就職説明会を実施している		B	○	A	・模試の分析などをこまめに行い、個々の生徒の学力に応じた個別指導を実施している。次年度では、模試の結果に基づいた指導方法の改善、メンタルサポートを強化し資格取得に向けての指導を強化していく。 ・看護協会真庭支部に協力いただき校内での就職説明会を実施。これにより地元医療機関への理解が深まった。次年度も協力依頼を行い継続していく。 ・2月10日現在19名中17名の進路が決定している。本年度、地元医療機関に2名の就職は内定しており昨年と同じ水準での就職となっている。また、進学者は1名であった。進学希望者の内2名は就職へと進路変更となり就職活動中である。今年度の進路実績を分析して次年度以降の進路指導に生かしていく。	過去3年間の進路状況 ヒアリング 学校自己評価	A
		・地元医療施設へ就職している	○		○				
		・個の希望に応じて高度医療に対応できる人材育成のための進路指導ができている	○		○				
		・資格取得(国家試験)に向けての指導が適切に行われている	○		○				
		・助産師・保健師等への進路指導が適切に行われている	○		○				
		・進学(大学編入学)に向けての指導が適切に行われている	○		○				